

令和2年度 京都府立大江高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）		
<p>知情体の調和のとれた発達を図り、時代の変化に主体的に対応できる、日本や地域社会の未来を担う人間を育成する。</p> <p>■ 本校が目指す学校像</p> <p>◆ 「大江高校に来てよかった」と思える学校</p> <p>◆ 第1希望の進路が実現する学校</p> <p>◆ 地域から愛される学校</p> <p>■ 本校が目指す生徒像</p> <p>◆ 知・情・意・体のバランスがとれた生徒</p> <p>【知】基礎学力の定着</p> <p>【情】豊かな心</p> <p>【意】チャレンジ精神</p> <p>【体】健康な身体</p>	<p>1 成果</p> <p>(1) 系統的かつ計画的に進路指導を行い、11年連続で就職内定率100%につながった。</p> <p>(2) 京都フロンティア校（地域創生推進校）として、これまでの成果を継承し、体験型学習としてのアクティブラーニングを中心に学習効果を高め、今年度も成果を上げることができた。</p> <p>(3) 様々な学力層の生徒が混在する中で、各教科で授業の進め方や教材などを工夫したり、多面的な学びを提供できた。特に今年度から京都府教育委員会が3カ年計画で取り組む「スマートスクール推進事業」により教室に最新のプロジェクターが設置され教師用タブレット端末が整備されたことにより、ICT機器を活用した質の高い授業について研究し実践を始めた。</p> <p>また、第2学期後半から京都府教育委員会が取り組む事業である「セカンドラーニング教室」を活用し定期考査前の特別講習を実施することができた。</p> <p>(4) マナーアップを目指し、登校時に生徒指導部をはじめ学年部の教員が校門での積極的な声かけ等、年間を通して取り組むことができた。また、課題となっていた問題行動もねばり強い指導によって改善の方向に向かっている。</p> <p>(5) 授業や部活動において、専門的な知識・技能を高める指導により、優秀な成績を収めることができた。成績については以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 第66回全国高等学校ワープロ競技大会京都府予選優勝 ◆ 第66回全国高等学校ワープロ競技大会出場 ◆ JAPAN Student Jazz Festival 2019 奨励賞 ◆ 京都府私立中学高等学校商業教育研究会主催第32回ワープロ競技大会団体優勝 ◆ 令和元年度京都高校写真連盟作品審査会個人の部佳作 令和2年度近畿総合文化祭出展予定 ◆ 京都府防犯まちづくり賞受賞 ◆ JR乗車マナー向上ポスター最優秀賞受賞 ◆ 第15回IPA「ひろげよう情報モラル・セキュリティコンクール」4コマ漫画部門優秀賞受賞 ◆ 「森の京都」観光プランコンテスト京都府知事賞（最優秀賞）受賞 <p>(6) ワーキンググループを立ち上げ、学科改編により次年度開設する「地域創生科」の教育課程の編成を始めとする教育内容の策定を進めることができた。その中で、各系統を組織的に運営するための系統長を定め、シラバスの作成など具体的な指導内容と評価について検討することができた。</p> <p>2 課題</p> <p>(1) 新学科「地域創生科」の完成年度である令和4年度での的確な目標を策定し、それにむけた具体的な取組をさらに推進する必要がある。</p> <p>(2) 学習指導については上記の通り一定効果が見られるが、全体的な学力向上の実現には課題が残っており、体系的な学び直しの手立てを検討する必要がある。</p> <p>(3) 部活動については、加入率が低くなり苦慮しているところであり、その意義や効果について広く指導し活性化を図る必要がある。</p> <p>(4) 次年度に改編する新学科「地域創生科」の中学生及び保護者に対する教育課程等、教育内容の周知が十分に進まず、生徒募集においても定員を大きく下回ることとなった。ホームページの更新についても、更新が遅れている内容が多く、その整理に時間を要し2学期当初にようやく整えることができた。今後は画面の構成も含め、工夫を凝らした魅力ある内容にしていきたい。</p> <p>(5) ゴミ分別が不十分なクラスが見受けられる。学校全体でゴミの分別やゴミの減量への意識向上に繋がる取組が必要である。</p>	<p>1 感染症に係る緊急対応に迅速かつ確に対処できる体制の構築 新型コロナウイルス感染症の拡大が地球規模で進むなか、法及び国・京都府がガイドラインで示す内容を具体的に実践し、感染拡大の防止に努めるとともに、他の感染症を含めた防疫に係る知識や技能を高める教育活動を展開する。</p> <p>2 「生徒を伸ばす教育」の推進 きめ細かく粘り強い指導を行うとともに、個に応じた学力の向上を図り、全生徒が「第1希望の進路が実現でき、本校に入学して良かった」と実感できるように努める。また、家庭との連携や地域との連携により、学校・家庭・地域の三者で生徒を育てる。</p> <p>3 スマートスクール化の推進 ～教方改革に実践～ 配備された電子黒板等のICT機器を効果的に活用し、ソサエティ5.0で想定される新たな教育システムの構築を目指す。日常の授業においてはICT機器が得意とする機能を十分に活用し、生徒たちが自らが活用できる時間を増やすことによって、講座内での共同・協働を通して学ぶ合うことができる時間を展開する。</p> <p>4 地域創生科の発展充実と戦略的な広報活動の展開 令和4年度の完成年度を目指し、教育課程が示す目標の達成をめざす。今年度においては、総合学科に設置される教科「産業社会と人間」のなかで、学ぶことの意義や目的について理解を深めさせる。</p> <p>また、前年度の志願者数が大きく定員を下回ったことから、中学校への出張説明会や塾への広報活動、マスメディアやホームページを通じた教育活動の発信により周知を進めることにより、志願者数の増加に繋げる。</p> <p>5 社会人基礎力を身につけるために必要なマナーアップを3つの視点からさらに推進し、将来地域を担う人材の育成につなげる。</p> <p>(1) 通学上のマナーアップ 公共交通機関での乗車マナーの向上及び通学路でのマナーアップによって、社会の一員としての規範意識を高める。</p> <p>(2) 校内でのマナーアップ あいさつの励行、携帯電話の使用、ゴミ・環境問題など、校内でのマナーアップに努め、安心・安全で清潔な学校環境づくりに取り組む。</p> <p>(3) 授業のマナーアップ 積極的な授業態度や家庭学習の習慣化により、学ぶ姿勢の育成と基礎学力を向上させる。</p> <p>6 安心・安全な学校の構築 ～感染症拡大の防止～ いじめ防止の取組、防災教育・交通安全教育、環境美化を推進し、安心・安全な学校環境を構築する。</p> <p>また、喫緊の課題となっている新型コロナウイルスへの対応について、生徒及び教職員が高い意識を持ち、より良好な環境の構築を目指す。</p> <p>7 教職員の働き方改革の推進 業務改善、教員の負担軽減対策を講じることにより働き方改革を推進し、業務の効率化を図るとともに複雑化・多様化する課題に的確に対応できる組織づくりを行う。</p> <p>また、月1回のノー残業デー（給与支給日）、考査期間中のノー会議、タイムマネジメントアクション（午後8時以降のやむを得ない業務の管理職への申告）等の具体的な取組をおとして勤務時間の縮減を図る。</p>		
評価領域	項目（重点目標）	具体的方策	評価	成果と課題
組織運営	学校改革と地方創生教育によるさらなる特色化の推進	<p>■ 地域創生科系統長を軸に、教育課程が示す教育目標を達成するための具体的な教育内容について検討し、教科「産業社会と人間」を通じて2年次以降の学びに向かう力の育成を図る。</p> <p>■ 京都フロンティア校（地域創生推進校）指定校としてこれまでに取り組んだ地方創生教育をより体系的・効果的なものに整理し、地域の活性化につながる学習内容を充実させることで地域の未来を担う生徒を育てる。</p> <p>■ 学校設定科目を中心にアクティブラーニングや体験活動の要素を取り入れ、普通科・ビジネス科学科の特色を生かした授業内容の研究を進めるとともに、今年度開設した地域創生科での一層の充実につながる取組を展開する。</p>	A A A	<p>前年度から新しい学科の運営に向けた系統長制を具体化するため、教務部長を主幹とする系統長会議を定例化することができた。1年次は同じ教育課程で学ぶため、主に教科「産業社会と人間」の教育内容について研究し、各系統長が共通理解するなかで2年次に繋がる教育活動を実践することができた。特に1学期は、2年次からの系統選択に向けたガイダンスに取り組んだが、2系統（国際交流系統、環境サイエンス系統）の選択者がなく不開講となったことは次年度に向けた課題である。</p>
	積極的な広報活動の展開による本校第1希望者の増加	<p>■ 広報紙発行、メディアリリース、ホームページの更新（リニューアルを含む）等を積極的に行う。</p> <p>■ 各種説明会やオープンスクール等の内容を充実させることで中学生・保護者・地域の本校への理解を深める。特に中学校での出前授業や体験授業を充実させることで本校の魅力を伝える。</p>	B C	<p>ホームページについては、校内行事を中心に記事を作成し更新し続けることができた。今後は、記事の増加が、オープンスクールへの参加者増や志願者数の増加につなげるための方策が課題である。</p> <p>オープンスクールの内容については、本校の教育活動が理解できるように工夫した取組とすることができたが、参加中学生の増加にはつながらなかった。</p>
	働き方改革の推進	<p>■ 教育活動を円滑に実施するためには、教職員の健康の充実が不可欠であることから、出退勤管理システムの記録を分析し、長時間勤務教職員の勤務時間の縮減に取り組む。特に、月1回のノー残業デー（給与支給日）、考査期間中のノー会議、タイムマネジメントアクションを確実に実行する。</p>	B	<p>教職員の勤務管理については、出退勤管理システムにより、個別の出退勤データを管理職で共有し、長時間勤務者には注意を促すなど、常に関心を持って取り組んでいる。月別の勤務状況については、データで示しており、個々が自らの勤務実態が把握できるようにしている。</p>

学習指導・進路指導	「生徒を伸ばす学校づくり」の強化	<ul style="list-style-type: none"> ■生徒一人一人の能力・適性・特性に応じた教材や授業方法を工夫し、誰もが分かる授業を展開するとともに校外での研修を継続的にを行い、授業力のアップにつなげる。 また、地域との連携等を通じて主権者教育、人権教育、道徳教育など様々な視点からの学びを提供する。 ■学年部と教科担当の連携を密にし、個々に応じた丁寧な指導を行う。特に学習に課題を抱えている生徒に対しては補習等の指導を粘り強く行う。 	A	A	<p>様々な学力層の生徒が混在の中で、各教科で授業の進め方や教材などを工夫したり、多面的な学びを提供できた。特に昨年度から京都府教育委員会が取り組む「スマートスクール推進事業」により教室に最新のプロジェクターが設置され、ICT機器を活用した質の高い授業についての研究を推進することができた。特に令和4年度入学生全員が個人用タブレット端末を購入することとなるため、それを活用した効果的な学習システムの構築が今後の課題である。</p> <p>基礎力補習については年間4教科延べ31名の生徒が述べ123時間受講した。その結果、成績不振科目の克服に繋げることができ、在籍者全員が卒業及び進級することができた。第2学期後半から京都府教育委員会が取り組む事業である「セカンドラニング教室」を英語で活用し、定期考査前の特別講習を実施することにより、基礎学力の定着を図ることができた。</p> <p>進路指導においては、系統的かつ計画的に進路指導を行い、今年度も就職内定率100%であった（12年連続達成）。進学については、ほぼ希望進路の実現を果たした。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ■課題、小テスト、学習プリントに取り組みせたりすることで家庭学習と基礎基本の徹底を図り、確かな学力につなげる。 ■図書館の利用の促進、積極的な資格取得、コンテスト・コンクールへの参加等を奨励・指導することで、表現力や自己有用感の涵養につなげる。 	A	A	
		<ul style="list-style-type: none"> ■系統的な進路指導計画に基づいて、低学年から個別面談やガイダンス等によるきめ細かい指導を行うことで、積極的に進路を考え、行動に移す力をつける。 ■キャリア教育・職業教育を充実させ、実践や体験から望ましい職業観・勤労観を育てる。 	A	A	
生徒指導	マナーアップ指導によるシチズンシップ教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ■通学上、授業、学校行事等を通じて、一貫したマナーアップの指導に取り組む。特に「乗車マナー」、「あいさつ」、「身だしなみ」、「言葉遣い」、「携帯端末の使用」、「清掃活動」等の市民生活を送る上で必要な基本的なマナーを全教職員体制で粘り強く丁寧に指導する。 	A	A	<p>教育活動全体を通し、全教職員が共通理解により統一した生徒指導を展開し、特別指導を行った生徒はいなかった。</p> <p>課題となっている部活動の活性化については、部員の確保等、具現化することができなかった。次年度に向けて部活動検討会議を立ち上げ、長期的な見通しに立った今後の方向性を見いだすことができた。</p> <p>生徒会執行部は、担当教員の指導により、コロナ禍における生徒会行事を工夫し、特に文化祭及び体育祭については、多くの生徒が満足できる取組となった。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止に向け、文部科学省、厚生労働省及び京都府教育委員会からの通知、また、地域の実態や学校規模に応じて、各教育活動毎に感染防止対策を行い大過なく年度を終えることができた。特に生徒・保護者に対する啓発文の配付や、保護者等の行事への参加における健康観察カードの活用等、知恵を出し合い工夫ある対応ができた。</p> <p>臨時休校中の生徒の学習機会の確保については、YouTubeを活用した授業配信やスタディサプリを活用した学習支援など、ICTによる取組も実施した。</p>
	安心・安全な学校の構築	<ul style="list-style-type: none"> ■教育活動全体を通して社会の一員としての生き方、生命の大切さ、交通安全について啓発する。また、地域、PTA、警察等とも連携した指導を行うことで、学校だけでなく、地域全体で生徒を育てる。 ■危険箇所等に対する迅速かつ適切な施設管理、また老朽化備品の廃棄及び備品整備を行うことで安心・安全な学校づくりを推進する。 ■新型コロナウイルス感染症の拡大防止に係る取組を具体的に実践し、臨時休校等の突発的な状況においても学習機会の保障に努める。 	B	A	
	課外活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ■部活動への加入を奨励し、活性化を図る。また、地域と連携したボランティア活動や本校独自の取組への参加を奨励することで、自己有用感の涵養につなげる。 	A		
		<ul style="list-style-type: none"> ■生徒会執行部を基軸として各委員会を機能させ、各種学校行事を主体的に運営し、成功につなげることで、生徒会活動を充実させる。 	A	B	
保健・環境	健康相談の充実と要支援生徒に対する支援体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ■健康診断と事後指導を徹底し、また保健だよりやスクールカウンセラーの情報提供を定期的に行うことで自己管理できる素養を育てる。 ■要支援生徒に対してスクールカウンセラー、まなび・生活アドバイザー、関係専門機関、関係分掌、保護者との連携を密にし、迅速かつ適切な対応を取る。 	B	B	<p>スクールカウンセラーと学び・生活アドバイザーの活用を推進することができた。特に、学び・生活アドバイザーの活用については、卒業後の進路を見据えて学年部と情報共有を行い、関係機関等との連携を密にし、きめ細かい支援ができた。</p> <p>教育環境の整備については、昨年度からの「スマートスクール推進事業」が、コロナ禍での生徒の学びの保障やGIGAスクール構想と共に加速的に推し進めることができ、次年度には産業教育振興施策により、コンピュータの全面更新も実施されることとなった。</p>
	教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ■学校予算の効果的な配分・執行を行うことで、効果的な教育活動につなげる。また、清掃活動をはじめとする教育活動の中で環境整備の意識を啓発する。 	A		
学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナ禍でのリモートでの授業について思うことがある。私もズーム用の部屋を用意し、業務で使用した。時間が限られているため、効率の良い会議ができた。ただし、ウェブ会議では、会議中、全体の雰囲気（空気）を読みとることはできないのが課題である。 ◆不登校が改善された生徒が、リモート学習により元の不登校に戻った生徒があると聞く。注意が必要である。 ◆生徒指導件数が0件という報告であった。落ち着いた雰囲気での教育活動が継続するよう努力してほしい。 ◆コロナ禍であり、大江高校生がデザインしたマスクを職場でもしていた。お客さんからも好評であった。 ◆府内の学校によっては部活動で特色（須知高校のホッケー、北桑田高校の自転車等）を打ち出している。大江高校には他校にはない「弓道場」があるが、最近では部員が少ないようである。今後、指導者を含め活性化できないか。 ◆進路保障が生徒募集の課題であると思う。今年度、福知山公立大学に合格したと報告を受けたが、公立大を始め地元の国公立大学（京都工芸繊維大学）に毎年のように何名かが入学できたら生徒の士気も上がる。 ◆令和2年度はコロナ禍で、対外的な行事ができていない。令和3年度は、新型コロナウイルス感染の拡大状況にもよるが、外へ出て社会の仕組みを知る授業に取り組んでほしい。そのことが、地域創生につながるのではないか。 ◆兵庫県立高校で、職場体験の講師をした。ユーチューバーになりたい生徒が多い。eスポーツは公立高校でも市民権を得つつある。また、地域との接点 I T 難民とのつながる高校生の取組によって、地域の活性化が図れるのではないか。 ◆入学生、志願者が少ない。原因を明らかにして対応をお願いしたい。 				
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ■学校関係者評価委員の方からは、本校が進める教育活動に対して前向きな評価をいただいた。保護者のみならず地域の方の期待に応えることができる人材の育成に努めたい。 ■平成30年度入学生から令和3年度入学者選抜における志願者が大きく定員を割り込むこととなった。本校では、多様な生徒が入学してくる中で、丁寧且つ粘り強く指導し総合力を大きく伸ばしている実績がある。そういった部分をしっかりとアピールし、大江高校の魅力発信していきたい。 ■令和3年度から、新学科「地域創生科」新2年生が各系統に分かれて学習に取り組む。今後の展望を含め、特色ある教育活動の魅力についても発信していきたい。 ■今年度は特別指導を行った生徒がおらず、年間を通じて落ち着いた教育活動が展開できた。次年度以降、生徒へ生活全般にレベルアップを求め、一歩進んだ進路獲得に繋げる指導を展開したい。 ■部活動については、依然として加入率が低く苦慮しているところである。今年度は部活動検討会議を立ち上げ、部員の確保と活動の活発化について議論を深めた。次年度は、新入生も含め、その意義や効果について広く指導し活性化を図りたい。 ■令和4年度の新学習指導要領の実施に向け、教育課程の研究を進めており、改定京都府教育振興プランの内容と併せ、より一層教育効果の高い取組を実施する。 				